

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132		
法人名	医療法人 翠山会		
事業所名	グループホームなかよし ユニットA		
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3		
自己評価作成日	平成21年12月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に関しては特に力を入れバランスの取れた献立作り、季節感が味わえる食材の使用を心掛けています。昔から伝わる日本の行事(正月・盆・彼岸・節句等)を大事にし、その時々合った食事を提供し楽しんで頂いている。個々の身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション、手工芸、学習療法、音楽療法等を取り入れ、楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っている。季節ごとに行事を企画し「花見(桜、バラ、コスモス等)、温泉、外食、ドライブ」など外出の機会を多く持つようにしている。また1日1回は外の空気が吸えるよう、一緒に洗濯物干しや花の水やり等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内は花に囲まれ明るく清潔で、臭気もなく快適な環境づくりがされている。利用者の表情は穏やかで互いに楽しく会話する機会や一人になれる空間を持てるよう職員が支援している。職員は利用者の尊厳をモットーとした支援をしており、教育が行き届いている。食事は旬の食材が豊富な家庭的な献立で、食卓は一般家庭のように楽しく会話に花が咲いており、理想的な食事となっている。朝からのレクリエーションは利用者の楽しみとなっており、お腹から声を出して歌を歌い、できる範囲で体操をするなど一人ひとりが一日を元気に過ごすための時間となっている。利用者同士が井戸端会議をする光景は事業所の目指す普通の暮らしが具現化したものであり、事業所の優れた点である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものになるよう、また地域社会の一員として生活できるよう支援する」と理念を掲げ地域の中でその人らしく暮らしていけるよう、全職員で理念を理解し支えていくように取り組んでいる。	地域で暮らす利用者支援を理念に掲げ、「元気で楽しくゆったりと」を目標にしている。楽しく元気な一日を過ごすために午前中は体操や歌を歌うなどのレクリエーション行い、午後はゆったりと自由に過ごせるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の公民館で行われる行事に参加させて貰い、ご利用者の作品を出品したり、見学に行かせて貰ったり、当法人の行事への参加を地域の方々へ呼びかけ、交流する事が出来ている。	玄関回りの花の手入れ時に近所の方々とあいさつを交わしており、花の苗をもらうこともある。小学生の通学路でもあるため子供110番や児童にトイレを貸している。また、地域の公民館祭りには利用者と一緒で作成した作品を展示するなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の社会科の学習の場として毎年提供している。又、慰問を兼ねた踊りの会の発表の場としても使っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、グループホームの地域への位置づけなどを報告し、参加者から率直な意見を出して頂き、サービス向上に活かすようにしている。	運営推進会議は3ヶ月に1度、規定のメンバーで開催しており、前回から近くの交番の警察官にも参加してもらっている。内容は事業所の近況報告や情報、意見交換であり、提案事項は職員間で検討し、取り組んでいる。現在、新型インフルエンザ対策で休止している。	運営推進会議は年6回の開催が求められる。次回の開催時期を決め、定期的な開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点などは、運営推進会議担当の市の職員をはじめ、県・市の長寿社会課に電話で質問したり、介護センターの職員との交流を持ち、情報を頂いている。	県、市の担当課職員とは電話で相談をしており、介護保険の更新申請時には出向き交流を持つよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は身体拘束について正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいるが、1F玄関のみ、1Fに職員が不在の時は、警察の指示もあり、不審者などの侵入防止の為に施錠を行っている。	身体拘束については法人内の身体拘束廃止委員会に参加した職員が議事内容を報告し、職員間で理解共有している。1階玄関施錠はやむを得ず行なっているが、他の施錠はない。声の大きさ、高さも拘束であることを認識しケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演や研修に参加して学ぶ機会を持っている。言葉遣い等も折に触れ、注意していくようにしている。外泊後は入浴時に外傷がないか確認するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はおられないが、研修の機会があれば積極的に学んでいき、必要な人がおられたらしっかり支援していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居、退居時にはご利用者、ご家族に対して十分に説明を行い、理解、納得していただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会話の機会を多く持ち、会話の中から不満や要望を引き出すように心掛けている。検討すべき点はケア会議にて話し合い、対応策を考えていくようにしている。さらに毎月のホーム便りでも呼びかけている。	家族の面会時や電話をかけた際に意見や要望を聞くよう働きかけており、気軽に話せるよう連絡を密にしている。出された要望は、ミーティングで話し合い、反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回以上職員会議を行い、職員の意見を聴く機会を設けている。必要に応じて、その都度意見を聴くよう心掛けている。	月に1度のミーティングや利用者の午睡の時間を利用して、職員間で話し合っている。ホーム長は個人面談を行い、職員の心のケアに努めている。職員は自由に意見や提案ができる雰囲気であり、出された提案は検討し、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援などやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に内外の研修を受けるよう働きかけ、なるべく多くの職員が受講出来るようにしている。研修報告書は、レポートして回覧にて閲覧できるようにし、職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の活動を通して、他のホームの職員の方との交流や勉強会の参加で知識の修得が出来ている。相互訪問を行う事で良い物を取り入れていき、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態や生活歴を把握するよう努め、ご本人の心身状態や思いに向き合い安心して利用を始めて頂けるよう心掛けしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学訪問時等に出来るだけ多くの会話を持ち、ご利用者、ご家族共々要望等気軽に言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談でご利用者、ご家族の状況を知り、他の事業所からの情報提供等により必要な医療やサービスが提供出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節に合わせた料理作りや漬物作り、干し柿作り等、昔摂った杵柄を発揮できられる様な場を作り、そこから学ばせて貰い支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を理解し、双方が良い関係を築けるよう、お互いの意見を尊重し支援していく様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の馴染みの方が面会に来られた際には、ゆっくりと過ごして頂ける様に配慮し、大切な関係がより良いものになる様努めている。また馴染みのある場所へ出掛けて行ける様ご家族と協力しながら支援している。	近所の方や元同僚、踊りのお弟子さんなど、面会が頻繁にあり、利用者とゆっくり過ごせるよう職員は湯茶の接待をしている。また、家族の協力を得て、正月や盆に外泊をしたり、月命日には帰宅するなど、関係継続の支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で洗濯物のシワ伸ばしや洗濯物干しを手伝って頂いたり、レクリエーションを通じてお互いの関わり合いが出来られている。職員も仲立ちとなりご利用者同士の関わりが持てる様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方にも、お花やお菓子等を持って面会に行く等つながりを断ち切らない様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望を受け入れ穏やかに暮らす事が出来る事を前提とし、本人主体に出来る様会議や申し送りノートを利用し全職員が情報を共有出来る様にしている。	日々の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情から真意を推し測り、確認するなど職員は本人本位の支援を心がけている。表出困難な方には家族から情報を得て支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の調査で個人情報把握出来る様にファイルしており、全職員が情報を共有出来る様にしている。可能な限り今までと同じ様な生活が出来られる様支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日適切な記録を行い、職員間の申し送り、情報伝達を確実にし、全職員が把握し小さな変化も見落とさない様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、課題やケアの方法などご利用者様のちょっとした変化などを、ご家族や関係者と話し合い、多くの意見を取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。	月1回のケア会議でカンファレンスを行い、意見交換をしている。本人や家族の希望、主治医の指示を記録し、計画に反映させている。短期3ヶ月長期6ヶ月の計画は3、4ヶ月に一度見直している。ただし、ケア会議記録が決定事項のみとなっており、検討内容の記載がない。	日々の記録をもとにケア会議で検討した内容、評価は記録し、次の計画作成時に役立てるよう記録の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日記入し、口頭での申し送りだけでなく、申し送りノートを作り、勤務開始前には必ず目を通しサインする様にし情報を共有し、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である老健施設や協力医をはじめ、美容室への送迎などニーズに対応出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせや、絵画教室のボランティアの方を受け入れている。近くの小学校の体験学習の場として提供したり、消防・警察からの協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望されるかかりつけ医と協力し適切な医療を受けられる様支援している。また医療連携を結び、安心して生活して頂ける様支援している。	母体が医療機関であるため週一回の往診がある。利用開始前からのかかりつけ医の受診は家族対応であるが、場合に寄っては職員が支援している。受診結果は家族から報告があり記録されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の老健の看護師や協力医の看護師と気軽に相談出来る関係が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と密に連絡を取り合い、情報交換、相談をしている。早期退院、退院後の生活についても担当医や看護師からの情報を頂きスムーズに入院前の生活に戻る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や母体老健との連携が取れていて、特変時には24時間対応出来る様になっている。日頃から密に連絡を取り合い、意思の確認を取り、早期からの話し合いや関係者全体の方針の統一が図れる様に努力している。	看取りは行なう方針であり、職員は理解している。指針は文書化しており、家族に説明し同意書を保管している。入退院後など必要に応じて、主治医、家族と話し合っている。職員の不安を取り除く為、夜間2人体制を取るなど支援に向けた取組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、急変時の訓練を行っている。(AED・吸引器・酸素吸入等)また、母体老健での勉強会や研修会に参加したり、急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時より、災害時の訓練を行っている。火災時の訓練は消防署の指導を受けながら行っている。母体の老健や近隣の方からの応援も受けられる様になっている。	年2回夜間想定で消防署立会いの元、避難訓練を実施しており、消火器の訓練も行なっている。母体の施設や近隣にも協力を依頼しており、消防団の出初式では挨拶がある。災害対策として非常食等の保管はしており、現在飲料水の購入を検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への尊厳の意を持ち、誇りやプライバシーを損ねる事が無い様折に触れ全職員に周知する様にしている。また親しくなり過ぎてご利用者の尊厳を傷つける様な言動にならない様配慮している。	利用者の尊厳を損ねない言葉掛け、言葉遣いを行なうよう職員間で日常的に注意している。個人情報は所定の場所に管理されており、広報誌の写真掲載、情報の公表については、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを伝えられる様な雰囲気、または言葉かけを行い、個々の理解力に添った説明をし、自己決定される様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースに合わせて無理強いはず、レクリエーションや手工芸等を行っている。希望にそって外出・散歩・買い物等の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	母体施設に訪問美容室があるので、そこを利用される方には送迎の支援を行っている。また日常の整容や衣服の購入の支援も行っている。行事参加の際にはお化粧も楽しませられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備、配膳、盛り付け等を職員と一緒にいき、穏やかな雰囲気の中で同じ物を一緒に食べ楽しみを共有している。能力に応じて食事の準備に参加して頂いている。	利用者の楽しみである食事で季節を感じられるような旬の食材を利用して、料理している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、楽しく会話しながら食事をしている。年に2回法人内の栄養士に見てもらいながら、利用者に合わせ、食事が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表に毎食記録をし、個々の食事量を把握している。一人ひとりの体調や食べる量に応じて盛り付けを工夫したり、栄養バランスを考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員が声かけ見守りを行い、一人ひとりの能力に応じて介助をしながら口腔ケアをして頂いている。気になる症状のある方には、歯科の往診を受け治療をして頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事の前後やご利用者の表情を読み取り、トイレ誘導を行っている。失敗してしまった場合でも、他のご利用者に気付かれない様配慮し対応している。また、出来るだけオムツを使用しない様に支援している。	利用者ごとの排泄パターンの記録があり、昼間はトイレ誘導、夜間は利用者の身体機能に合わせてオムツやポータブルトイレなどを利用している。基本はトイレでの排泄を大切にして日々の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録に残し、便秘がちな方へは水分量や食事量にも注意し、運動を促している。又、主治医への報告を行い、服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には毎日入浴出来る体制をとっているが、実際は週3回の入浴になっている。ご本人の希望に合わせて入浴の順番や体調に合わせてシャワー浴や足浴で対応して入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	利用者は月、水、金の週3回入浴している。お湯の温度は職員が確認しており、車椅子利用者は、職員が2人で介助し入浴を楽しめるよう支援している。拒否の方にはタイミングをみて声をかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動して頂き、夜間の睡眠が十分に取れる様な働きかけを行っている。室温や寝具の調整にも気を配っている。必要な方には眠剤の服薬支援をし安眠して頂ける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書にしっかりと目を通しその薬の効能、副作用などを把握している。薬が変わった時は申し送りを徹底している。又、定期的に薬剤師による服薬指導がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を手伝ってもらったり、季節に合わせた漬物作りや干し柿作り等を一緒に行っている。手工芸等その人に合った作品作りを楽しまれている。また、季節事の行事を行い参加して頂き楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を肌で感じて頂ける様散歩やドライブ、外食等を行っている。また日光浴、外気浴をしながらホーム近くの広場でおやつを頂く機会を作っている。また可能なご家族には協力を得て、外出・外泊の支援を行っている。	玄関前は車の往来が頻繁であるが、外気に触れるよう職員が付き添い近くの広場へ散歩をしている。又、洗濯物干し場が屋外にあり、利用者と職員が一緒に出かけ干したり、取り込んだりしている。また、毎月行事を計画したり、家族にも協力を依頼して日常的に外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどのの方が小額を手持ちされていて、毎日の様に数えて安心されている人もいる。日頃、手持ちしていない方も外出時には自分で払える様預り金の中から手渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が出来、プライバシーが守れる様、子機を利用し居室で使える様に支援している。手紙のやり取りが出来る様に切手や葉書の購入の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、ネームプレートには季節感が感じられる様な飾り付けをしている。レースのカーテンを使用し、光に対しての対応をしている。ホールにはテレビ・ソファを設置し、ゆっくりくつろいで頂ける様配慮している。	共有空間は毎日2回掃除をし、清潔保持に努めている。リビングは明るく、適温であり湿度管理も行き届いている。季節の花が飾られ利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごせるよう職員が配慮し、工夫した空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2人掛けのソファがあったり、和室があり、それぞれ好きな場所で過ごせる様にしている。また廊下には木の椅子があり、独りになれる場所も設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家族の写真を飾る等、安心して過ごせる様にしている。植物の好きな方は部屋に沢山の植物を持ち込まれる等、個性溢れる居室となっている。位牌を持ち込み毎朝手を合わせられている方もおられる。	居室は家族の協力を得て、利用者の馴染みの家具や仏壇、位牌、写真などが置かれ、利用者の個性が出ている。職員が2週間に1度は花を飾り、明るく清潔な居室となるよう支援している。ただし、ポータブルトイレがそのまま置かれている部屋がある。	快適な居室への配慮として、使用しない時間帯のポータブルトイレは別の場所に置くか覆うなどの工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、車椅子や杖歩行でも安全に移動出来る様になっている。またそれぞれの居室には写真入りの表札を掲げ出来る限り、お一人おひとりが自立した生活を送れる様工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201132
法人名	医療法人 翠山会
事業所名	グループホームなかよし ユニットB
所在地	長崎県佐世保市赤崎町81-3
自己評価作成日	平成21年12月25日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に関しては特に力を入れバランスの取れた献立作り、季節感が味わえる食材の使用を心掛けています。昔から伝わる日本の行事(正月・盆・彼岸・節句等)を大事にし、その時々合った食事を提供し楽しんで頂いている。個々の身体・精神能力を低下させない為、レクリエーション、手工芸、学習療法、音楽療法等を取り入れ、楽しみながらレベル低下を防ぐ支援を行っている。季節ごとに行事を企画し「花見(桜、バラ、コスモス等)、温泉、外食、ドライブ」など外出の機会を多く持つようにしている。また1日1回は外の空気が吸えるよう、一緒に洗濯物干しや花の水やり等を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたものになるよう、又地域社会の一員として生活できるよう支援する」と理念を掲げ利用者様が住みなれた地域でその一員として生活できるよう支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が気軽に立ち寄れるよう玄関周辺に花を植えたり、当事業所の行事に招待したりしている。又、運営推進会議に参加していただいたり、小学生が下校途中にトイレを借りに来たりと、日常的に交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の社会科の学習の場として毎年提供している。又、慰問を兼ねた踊りの会の発表の場としても使っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、行事報告、利用者様の近況報告、施設の様々な取り組みを報告し、地域や行政、ご家族の方より意見を頂きサービスの向上に活かしている。また、会議録を全職員に回覧している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている行政の方を中心に、新しい取り組みをする際や、制度が変わった際などに電話をしたり、たずねたりして協力をしていただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、身体拘束について正しく理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいるが、1階玄関のみ、スタッフ不在時は不審者などの侵入防止の為に、防犯上の施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、勉強会に参加し学ぶ機会を持ち、言葉遣いにも気をつけている。又、虐待が見過ごされることがないように、更衣・入浴時などに注意をして様子観察を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護に関して必要な知識を持ち、現在は居られないが、必要な利用者には制度を活用していただけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に重要項目などをはっきりと説明を行い同意を得ている。又、改定等の際には、利用者様のご家族に直接説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族に日頃よりご意見がないか伺い、ご要望などあれば迅速に対応をしている。又、1階エレベーター前にご意見箱を設置し、匿名でも投稿して頂けるよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を行う際に、職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、常に意見を出し合い運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者、職員個々の状況や能力を把握し、給与水準や資格取得の支援などやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの長所を活かせる業務を任せている。又、積極的に研修会などへの参加を促し、その報告書を全職員間に回覧することで、職員全体のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での交流を始めとして、さまざまな研修会などの場で同業者と交流する機会があり、そこでのネットワークをお互いの職場のサービスの質の向上へとつなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、困っていることや不安に感じられている事、要望等を聞き取り、何度か見学に来て頂き、ご本人と職員との信頼関係を初期段階で築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同様に、不安な事や要望等をしっかり聞き取り、何でも気軽に話をしていただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で、ご本人、ご家族の情報を聞き、又他の事業所からの情報提供などにより必要な医療やサービスが利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者より多くのことを学び、教えて頂くことも多く、人生の先輩として、暮らしを共にする物同士、助け合い支えあう関係を。築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	どのようなケアを提供していくか、ご家族の意向を尋ね、様々な場面で協力して頂き、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人達が面会に来られた際には、ゆっくりと過ごして頂けるよう努め、大切な関係がよりよいものになるよう配慮している。又、馴染みのある場所へも出掛けて行けるよう、ご家族と協力しながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を、食事の席では隣同士に座って頂いたりしている。又、意思疎通に多少困難な方には、職員が仲をとりもち、皆様が楽しく和やかに過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまで築いてきた関係を大切に、ご本人やご家族より相談などあればできる限りの支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの希望や意向の把握に努め、ケア会議やケアプラン作成の際に役立っている。困難な場合にはご家族の希望や意向も尋ねながら本人本位に検討を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の生活歴、生活環境を把握し、可能な限り今までと同じように生活出来るよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの心身状態など常に現状を把握する事が出来るよう、個人記録や業務日誌を活用し、小さな変化も全職員が把握出来るよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より、課題やケアの方法などご利用者のちょっとした変化などを、ご家族や関係者と話し合い、多くの意見を取り入れながら現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、業務日誌、申し送りノートを活用し日常の様子や変化、気付きなど、大切な情報を職員が共有し、ケアの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体である老健施設や主治医を始め、ご本人・ご家族のニーズに対応出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせや、絵画教室のボランティアの方を受け入れている。近くの小学校の体験学習の場として提供したり、消防・警察からの協力も得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけ医と協力し、適切な医療を受けられるよう支援している。また、医療連携、週に一度の往診などで、より健康で安心して生活して頂けるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日々の変化や気付きをかかりつけ医の看護師へ相談、報告している。また母体である老健施設の看護師へも相談し、助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先と密に連絡を取り合い、情報交換、相談をしている。早期退院、退院後の生活についても、ご利用者が安心して治療を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、看取りに関する説明を行い、同意を得ている。出来る限りのケアを提供出来るよう、職員のスキルアップに取り組んでおり、かかりつけ医か母体老健とも協力関係を築いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃より、急変時の訓練を行っている。(AED・吸引・酸素吸入等)また、母体老健での勉強会や研修会に参加したり、急変時のマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入社時より、災害時の訓練を行い、全職員はいつでも利用者様が安全に避難出来る様努めている。又、火災時の訓練は消防署の指示を受け行っている。災害時には、母体老健より応援を受ける体制が出来ている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉かけには十分注意を払っている。個々の性格や、その時々のご利用者の気分に合わせて対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、ご利用者本人の思いや希望を表出して頂けるよう支援している。また、自己決定出来るよう声かけなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースで生活出来るよう支援している。本人の希望により、レクリエーションや手芸などに参加して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢を重ねても、その人らしいおしゃれが出来るよう、日常の整容や、衣服購入の支援、美容室への送迎などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど出来る事を一緒にして頂いている。お湯飲みは使い慣れた物を使用して頂き、食べ物の好みにも出来る限り対応している。家庭的な雰囲気の中で食事が出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量表に毎食記録をし、個々の食事量を把握している。体調や食べる量に応じて盛り付けを工夫したり、栄養バランスを考えて支援している。又、いつでも水分補給ができるように、昼夜環境を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員が声かけ見守りを行い、お一人おひとりの能力に応じて介助をしながら口腔ケアをして頂いている。又、気になる症状のある方には、歯科の往診時に診て頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを記録し、把握する事で、排泄の自立に向けて支援を行っている。時間ごとに声かけ誘導を行い、夜間オムツ使用の方も日中リハパンを使用され、トイレ誘導にてトイレ排泄されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を記録に残し、便秘がちな方へは水分量や食事量に注意し、運動を促している。又、主治医への報告を行い、服薬支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は週に3回入浴を行っているが、希望があればいつでも対応を行っている。入浴の時間や順番等は、ご利用者の希望を聞き、ゆったりと気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりのペースに合わせて、午睡をして頂き、夜間はその日の体調や気分に合わせて、入床や離床を促している。また、必要な方には眠剤の服薬支援をし、安眠して頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書にしっかりと目を通し、薬の効能、副作用を把握している。薬が処方される度に、個人カルテ、業務日誌に記し職員全員が常に理解している。また、定期的に薬剤師による服薬指導がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの出来る事、やりたい事などを把握しそれに合わせてお手伝いや学習療法等楽しみながら参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に施設周辺や前の広場を散歩したり、毎月の行事としてお花見や外食、温泉、初詣等にお連れしている。また、ご家族に協力を依頼し、出来る限りご利用者の希望を叶えられるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の出来る方は。ご自分で小額のお金を持たれている、また、ご本人、ご家族の希望によりお預かりしている方の場合、必要な時、ご自分で使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望により、自ら電話をかけたり、手紙をやりとりしたり出来るよう支援している。ご家族からの電話があった場合にも、ゆっくりと会話しやすい雰囲気を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるよう環境整備に努めている。生活感や季節感を取り入れ、クリスマス等には、雰囲気を楽しめるようご利用者と一緒に飾り付け等を行っている。また、湿度や温度にも気を配っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも一人でゆっくりと新聞を読んだり、ソファでテレビを観たりされている。またテーブル席で仲の良い方同士話しをされている事も多く、お一人おひとりが、思い思いに過ごしていられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのある品を置き、出来る限りご自宅に近い感覚で居心地良く過ごして頂けるような工夫をしている。(ご家族の写真や、好みの植物、位牌等を置かれている。)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、車椅子や杖歩行でも安全に移動出来るようになっている。また、居室には写真入りの表札を掲げ、出来る限り、お一人おひとりが自立した生活を送れるよう工夫している。		